春秋彩

Shunjusai

vol.54
熊本県立大学広報誌
2021 Spring

CONTENTS

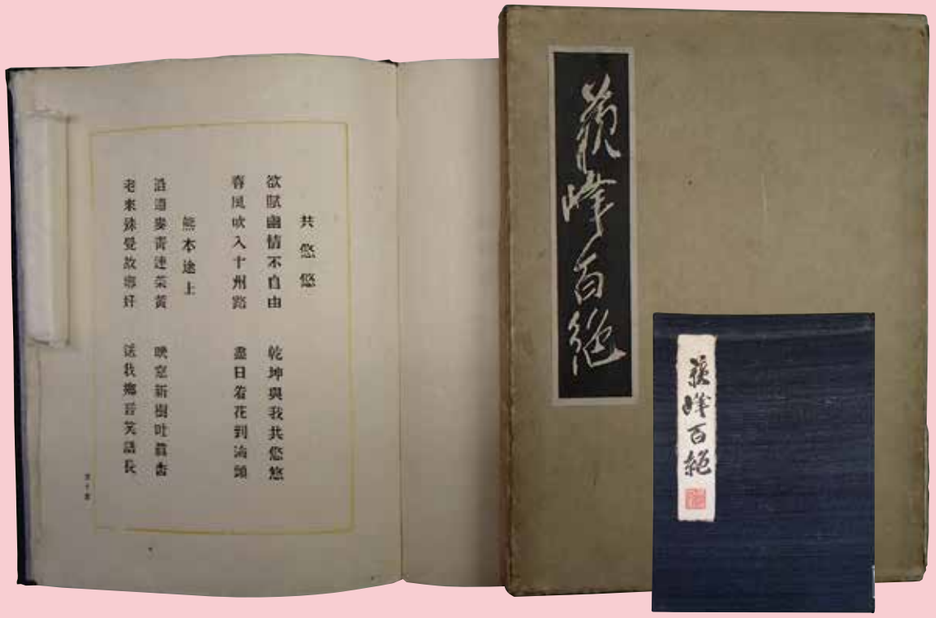
学長あいさつ …… 2
特集　地域に生きる熊本県立大学 …… 3
活躍する卒業生 …… 7
地域連携 …… 8
研究活動紹介 …… 9
国際交流 …… 10
大学の動き …… 11
後援会だより …… 13
活き活き元気種 …… 14
おすすめの一冊・人事情報 …… 15
熊本県立大学アーカイブス …… 16

春秋彩とは

万葉集の額田王の春秋を論じた歌の題詞「春山の万花の艶と秋山の千葉の彩」から採ったもの。「春秋」には年月の意味もあり、「春秋に富む」若者を彩る学園の四季を表している。

熊本県立大学
Prefectural University of Kumamoto

Archives　熊本県立大学　アーカイブズ



徳富蘇峰『蘇峰百絶』草木屋出版部刊

昭和十二年、百部限定で草木屋出版部より刊行。ただし、実質は私家版と見てよかろう。かつて文学部刊行の『文彩』誌（第15号）上において、水俣市立蘇峰記念館蔵の近世初頭制作の木製活字の伝存を紹介したことがある。蘇峰収集の一品である。蘇峰の愛書癖についてはよく知られた事実だが、ここでは彼の活字愛という面に絡めて、標題の一書の紹介に及びたい。

本書はその題名からも知られるとおり、蘇峰作の七言絶句百首を集めた詩集。並木仙太郎の跋文によれば、蘇峰還暦の年から昭和十二年初頭の作までを厳選しての撰集という。巻頭には「不倣前賢不衒奇、短吟長嘯任吾癡、孤雲出岫泉行地、此是蘇峯野客詩」との詩に加え、「蘇叟七十五」との墨書署名があり、七十五歳の記念として作られたものと見える。

美装本の制作で知られ、数多の文人と交流のあった山崎斌（あきら）の手により造本された特装本である。山崎は「草木染め」の命名者で知られ、本書の表紙を覆う表布もその工房での染色と窺われる。月明紙と命名された厚手の和紙五十丁に絶句二首ずつを片面刷りにした贅沢さもさることながら、その何よりの特徴は、版画家として知られる畦地梅太郎による自家製の木製活字による手刷り印刷であるという点にある。

本書刊行と同年に、島崎藤村の『早春詩抄』も同じく草木屋出版部より山崎、畦地により刊行されていることから、蘇峰の本のためだけの特注ということではなかったようだが、いかに贅をこらした印刷かよくわかる。現代のワープロフォントとはひと味もふた味も違う、手作り活字の味わいには蘇峰も眼を細めたであろうと偲ばれる一冊である。

解説：文学部日本語日本文学科　教授　鈴木元

「春秋彩」へのご意見・ご感想をお待ちしています。

本誌についてのご意見・ご感想を下記までお寄せください。
いただいたご意見は、今後の広報誌編集の参考にさせていただきます。

〒862-8502（住所記載不要）
熊本県立大学企画調整室「春秋彩」担当行
FAX 096-384-6765　E-mail kikaku@pu-kumamoto.ac.jp

発行：熊本県立大学
〒862-8502 熊本市東区月出 3 丁目 1 番 100 号
TEL 096（383）2929（代）
http://www.pu-kumamoto.ac.jp/

熊本県立大学長
半藤 英明
Hando Hideaki

わがままな民主主義

選挙に不正があったとしてバイデン次期大統領に異を唱えたアメリカ国民を見ると、この国でさえ民主主義が不完全、あるいは、未成熟であったと思い知らされる。アメリカの選挙が成立しないのであれば、世界のどこに公正な選挙があるのだろうかとすら思ってしまう。

世界中で新型コロナ感染症を抑え込めない今日、日本では再び緊急事態宣言が限定的ではあるが発出され、政令や法改正によって欧米のように人々の行動を制限する動きが強まった。現状からすれば、当然のなりゆきである。ただ、罰則を適用しないと感染症が収まらないと思うのは感情的に理解できるものの、それは民主主義を手放そうとする姿であると思えてならない。日本は民主主義国家であることを標榜しているが、そもそも日本の民主主義とはどういうものなのか。十全なものであったのか。

民主主義とは何か。私たちは学校でどれほどのことを学んで来たであろうか。思想の背景や歴史、原理と現実、享受や葛藤など、実は多くのことをないがしろにして来てはいまいか。いま起きていることが、その結果ではないのか。民主主義の根本は自由という権利のなかで人々の一人ひとりが安定した社会づくりを理性的に目指すことである。秩序を担う権力は現実的に否定されないが、民主主義に基づく平和な社会は有無を言わさぬ国力で成し遂げるに非ず、人々の自発的で自律的な自覚と行動があってこそ実現し、保たれる。人の精神は不確かで、頭では判っても心身が言うことを聞かず、理不尽な判断や結末となることがある。だが、思うようにならぬを力で抑え込もうと考えるとき、民主主義の崇高な理想はカーブを曲がってしまう。

日本政府も首長たちも、もちろん私たちも感染症の第三波に苦慮したわけだが、近視眼的な、わがままな民主主義の精神で感染症は収束しない。政府の分科会も発信しているように、肝心なのは市民一人ひとりの協力である。協力とは社会的な責任であり、それこそが民主主義の姿に他ならない。感染症にかからない行動をし、他人に移さない配慮と想像力で、安定した社会づくりをしようではないか。大袈裟な言い方になるが、私たちの民主主義を守るか、手放すかの選択のときが来ている。

特集

地域に生きる 熊本県立大学

熊本県立大学は、「地域貢献」を重点目標のひとつとしてさまざまな活動に日々取り組んでいます。コロナ禍で生活様式の変容が叫ばれる中でも、熊本という地域をフィールドとして、研究者や学生たちが活動をしている事例をご紹介していきます。

令和２年7月豪雨災害からの地域の復興・再生支援

令和2年7月に県南地域を中心に甚大な被害をもたらした豪雨災害は、新型コロナウィルス感染症流行下での大規模災害となりました。今回の災害では多くの人命と財産が失われ、今なお、多くの住民の皆さまが仮設住宅等での生活を余儀なくされているなど、地域の復興・再生への支援が強く求められています。

そこで、熊本県立大学では、令和2年7月豪雨で被災した市町村等と連携して地域の復興・再生支援に取り組むことといたしました。

被災地の皆様が一日も早く日常生活を取り戻せるよう、大学の専門的知見を活かした支援を積極的に推進して参ります。

熊本県立大学被災地域支援プロジェクト

1 被災地域の「今」発信

専　門
公共／地方行政／情報

教　員
宮園 博光
高濵 信介
岩見 麻子

内　容
人吉球磨地域を対象にフィールドワークを行い、地域の動画作成など被災地の「今」を情報発信します。

2 研究・教育活動拠点を設置

専　門
公共／地方行政

教　員
高濵 信介

内　容
人吉市内にシェアオフィスを設置し、人吉球磨地域において熊本県立大学の教育・研究活動の拠点、および地域交流の場として活用します。

3 地域のニーズ調査隊が行く！

専　門
公共／地方行政

教　員
高濵 信介

内　容
被災地域へ出向き、地域の課題やニーズ調査を学生が実施します。自治体や観光協会などと連携し、地域住民との交流やイベントなどを支援します。

4 復興・再生期の地域づくり

専　門
公共／福祉／ビジネス／情報

教　員
総合管理学部・学生PJ
（KUMAJECT）

内　容
あさぎり町、五木村、球磨村、相良村、人吉市の5つの市町村を対象に、学生と教員が復興・再生期の地域づくりに参画。課題抽出、政策提案を行います。

5 仮設住宅の暮らし方・アイデア

専　門
建築計画

教　員
佐藤　哲

内　容
熊本地震での仮設住宅の解体廃材を利用したワークショップを通して、両被災地をつなぎ、住民参加型の復興支援プロセスを提案し実践します。仮設住宅での暮らし方アイデアをまとめます。

6 復興まちづくりのための現地調査

専　門
都市計画

教　員
柴田　祐

内　容
球磨川流域の山間集落を対象に、被災状況等について住民にヒアリングや現地調査を行い、復興まちづくりを支援します。

7 特産品の付加価値向上

専　門
食品栄養機能性

教　員
友寄 博子

内　容
人吉市で栽培される「菊芋」のイヌリン含有率の簡易測定法を確立することで、機能性表示食品としての商品付加価値を高め、販売促進につなげます。

8 被災地域の環境調査

専　門
水環境

教　員
阿草 哲郎

内　容
被災地域の土壌や堆積物に含まれる化学物質を調査し、生態系やヒトへのリスクを判断する取り組みを行います。

9 特性を活かした新たな加工品

専　門
農学

教　員
松添 直隆

内　容
芦北・水俣地域のサラダタマネギを活用した加工品開発で復興推進を図ります。

10 県産特産品の消費と販売の拡大

専　門
食品栄養機能性

教　員
友寄 博子

内　容
被災地域で生産される「干ししいたけ」の高付加価値化による消費拡大及び販路拡大で被災した山間地域の復興に繋げます。

その他活動が決定しているもの

環境共生学部 教授	石橋 康弘	球磨村の木質災害廃棄物を活かしたバイオマスでのエネルギー供給の仕組みを提案して、災害からの復興及び持続可能な地域づくりを支援する。
文学部 准教授	大島 明秀	学生有志とともに、被災地域の小学生を対象に学習支援や交流イベント等を行い、児童の学習面及び精神面で支援する。
文学部 教授	村尾 治彦	被災地域の小・中学生を対象に英語学習支援や英語を使った交流活動を行い、児童・生徒の学習面及び精神面で支援する。

※今後支援プロジェクトは、随時更新される予定です。

学生たちの取り組み

学生GP（地域連携型卒業研究）とは？

地域企業・地域社会から研究テーマを募集し、それを学生が地域連携型卒業研究として取り組むもの。学生は、地域が抱える問題に卒業研究として取り組むことで、社会人としての演習の場になり、実社会の知識のあり方、コミュニケーション力、問題分析・解決力などを会得していきます。

	グループ名	連携先	研究テーマ
	IBD	大腸肛門病センター高野病院	クローン病患者における腸内細菌叢および糞便中短鎖脂肪酸の解析
	TBG	熊本市国際交流振興事業団	熊本市の国際化・多文化共生社会推進事業の構築～避難所を対象とした生活ルール表と指差し会話シートの製作～
	らしさ	NPO法人熊本まちなみトラスト	文化コミュニティの見える化の手法開発　熊本市まちなかを対象として
	CCC	熊本県栄養士会	新型コロナウイルス感染症流行時における介護支援専門員の業務に関する研究
優秀賞	たま応援隊	玉名市ふるさとセールス課観光振興係	玉名市マスコットキャラクターを活用した観光商品の効果的な情報発信
優秀賞	Artract	熊本県立美術館	熊本県立美術館及び熊本城周辺施設及び熊本県立美術館ファンの造成
	Honey Ginger Ales	八代市フードバレー推進課	八代農産物を使った商品の高付加価値による新たな海外展開
	D:HS'20	ジェイコム九州熊本	ケーブルテレビがもたらす地域防災力強化への効果～秋津校区防災連絡会の取り組みを例に～
	献血促進チーム	熊本県赤十字血液センター献血推進課	若者が行きたい魅力ある献血ルームへ将来を見据えて、日赤プラザ献血ルームから発信する変革
	丸くま	熊本日日新聞社	くまモンアプリを使った地域活性化の企画設計　地元周遊で経済と復興の両輪を回せ！
最優秀賞	佐藤工務店	熊本県住宅課管理班	熊本県営住宅の活性化方策の検討

SalVage～規格外野菜を救い隊～

規格外の野菜を皆さんに知ってもらうため、県立大生が研究室、サークルの枠を超えて熊本県内各地の農家のもとに取材走り回っています。

kendai_salvage

規格外野菜や熊本の食を支える農家さんたち、そして熊本の魅力を少しでも多くの人に知ってもらうべく、学生がドタバタしながら必死に活動しています！

新規メンバーも募集中です。インスタフォローお願いします♪

#熊本県立大学
#規格外野菜
#地域創生

県内各高校との連携した事業の実施

国際理解講座「令和SDGｓ熊本」

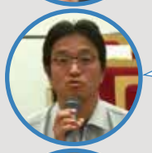
講座実施高校一覧

熊本県立翔陽高等学校
熊本県立八代中学校
熊本県立大津高等学校
熊本県立矢部高等学校
熊本県立鹿本高等学校
熊本県立熊本高等学校
熊本県立熊本北高等学校
熊本県立水俣高等学校
熊本県立八代高等学校
熊本県立熊本西高等学校
熊本県立人吉高等学校
熊本県立東稜高等学校
熊本県立八代農業高等学校
熊本県立天草拓心高等学校
熊本県立宇土高等学校
熊本県立八代清流高等学校
専修大学玉名高等学校
八代白百合学園高等学校

高大連携Webフォーラム「くまもとの未来を築く若者たちへ」

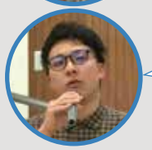
みなさんには夢を持ってさらには世の中をより
ポジティブにいい意味で影響する人間になって欲しい

国際教育交流センター 特任教授　**田中 耕太郎**



大人の人に、興味や仕事の面白みを聞いておくと将来
自分の人生設計や大学選びに役に立つ

エネルギープロダクト株式会社山都営業所長　**野口 慎吾**さん



自分の興味にあったものをとことん突き進んでやって
いくことがすごく自分の中で面白くて楽しい

総合管理学部4年　**平井 慎一郎**さん

当日の様子は
こちらから

活躍する卒業生

『いま』だからこそ出来ること

笑顔で取材をする浦田さん

熊本県信用保証協会
浦田　駿さん
総合管理学部 2019年（平成31年）3月卒業

今の仕事内容　お客様のためになる情報を、お客様目線で発信

期待と不安を抱きながら熊本県信用保証協会に入協した2019年春から、まもなく2年が経とうとしています。あっという間の2年間でしたが、先輩方からの丁寧なご指導のもと、やりがいや喜びを感じるとともに、学びの多い充実した日々を送ることができています。

熊本県信用保証協会は、信用保証協会法に基づき、中小・小規模企業者の金融円滑化を目的に設立された公的機関です。県内中小企業が金融機関から事業資金を借入する際に、当協会が公的な保証人となり、資金調達と経営改善のお手伝いしています。「いかに、経営者の方々が抱えている悩みを自分のこととして考え、寄り添い、適格な支援ができるか」、ここに協会職員としてのやりがい・存在意義があると感じています。

私は現在、総務部企画課の広報担当者として業務に励んでいます。直接、お客さまと関わることは少ない部署ですが、「お客様が求めている情報」、「協会が発信すべき情報」、「伝わりやすい表現方法や言い回し」等を模索し、常にお客様目線を意識したホームページの運営・管理、刊行物の制作等に努めています。特に、このコロナ禍における県内事業者への情報発信は、事業者の今後を左右する重要な要素となり得るため、自覚と責任を持ち業務に励んでいます。想像以上に新型コロナウイルスの感染が拡大し、先行きが見えない不安な状況ではありますが、苦しんでおられる県内事業者の皆さまに「信用保証協会が居てくれて良かった」と少しでも思っていただけるよう、今後も自分の責務を全うしていきます。

後輩に伝えたいこと　『いま』しかない時間を大切に

学生時代、両親や先輩方から「学生時代にしか出来ないことが沢山あるから、いまの時間を大切にした方がいいよ」と言われていたものの、あまりピンと来ないまま、4年間の学生生活を終えてしまいました。ですが、月日が経つにつれ、少しずつその意味が分かってきたような気がします。貴重な経験を積むことができたかけがえのない4年間でしたが、「もっとやれたんじゃないか」というのが本音です。自分の過去に100%満足できる人は中々居ないと思いますが、100%に近づけるための努力は必要なのかと思います。

チャレンジすることも、失敗することも『いま』しかできない貴重な経験です。皆さんの『いま』しかない学生時代が、有意義な時間になることを願っております。

地域連携

県南地域の活動拠点となる「球磨ラブラトリー」を開設しました

本学教職員及び学生が人吉球磨地域をフィールドに、令和２年７月豪雨で被災した地域の復興・再生支援やゼミ活動等、教育・研究に取り組むための活動拠点として、人吉市まち・ひと・しごと総合交流館「くまりば」内にシェアオフィス「球磨ラブラトリー（略称：クマラブ）」を３月に開設しました。

総合管理学部3年白坂ももさんデザインのロゴです。

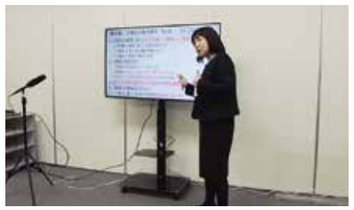
地域と大学をつなぐWebサイト「地域ラブラトリー」始動！

本学の地域貢献活動・研究の取り組みを広く地域の皆様にお知らせするための専用Ｗｅｂサイト「地域ラブラトリー」を開設しました。このサイトでは、本学と地域との取り組み実績や、各種公開講座の募集、本学の研究室情報など、地域連携に関する様々な情報を分かりやすく紹介しています。是非一度サイトをご覧ください。

各種公開講座等をオンラインで実施しました

生涯学習ニーズに応えるために、例年対面方式で実施していたＣＰＤプログラムや各種公開講座について、今年度は新型コロナウイルス感染予防のため、オンライン方式で実施しました。

講座名等	配信方式
オンライン授業公開講座	Microsoft Teamsを利用したオンデマンド配信
建築家　矢橋徹　講演会（写真上）	
体感する数学：数学っておもしろい！	
髙橋研究室　卒業設計展	Youtubeを利用したオンデマンド配信
児童生徒が学びの主体となる外国語教育研修会	Microsoft Teamsを利用したLIVE配信とオンデマンド配信
看護管理者の小論文のための書き方セミナー（写真下）	



教育の現場から研究へ

研究活動紹介

文学部 日本語日本文学科
准教授　秋葉　多佳子

これまで私が行ってきた研究のほとんどは、日本語教育の現場で生まれたアイデアをもとにしたものでした。これまでの研究の中で日本語教育の現場における疑問がきっかけとなったものを二つご紹介したいと思います。

第二言語習得研究の観点から見た効果的教授法に関する研究

一つ目の研究は、大学院の博士課程から続けている、効果的な教授法に示唆を与える言語習得モデルである「投射モデル」についての研究です。学部生時代に地域の日本語教室で日本語を教えはじめてから、学習者の習得過程や効果的教授法について強い興味を持ってきました。大学院に進学し、様々な教授法や学習法を探る過程で「投射モデル」に出会い、この研究を始めるに至りました。

「投射モデル」は簡略化すると、ある文法項目が持つ意味・機能のうち、非標準的意味・機能を教えると、教えていない標準的意味・機能の習得が進むというモデルです。博士課程の研究では、このモデルを日本語の格助詞「で」の複数の意味・機能の習得に応用し、台湾人日本語学習者および韓国人日本語学習者を対象にした教授実験を通して検証しました。研究の結果、格助詞「で」の習得においても部分的に投射モデルの教授効果がみられることがわかりました。その後、この研究成果は認知言語学と日本語教育についての書籍『Linguistics and Japanese Pedagogy A Usage-Based Approach to Language Learning and Instruction』に論文として発表しました。現在は、このモデルを他の文法項目の習得において検証することを目的として、日本語の授受補助動詞の先行研究を当たりつつ応用可能性について検討しています。

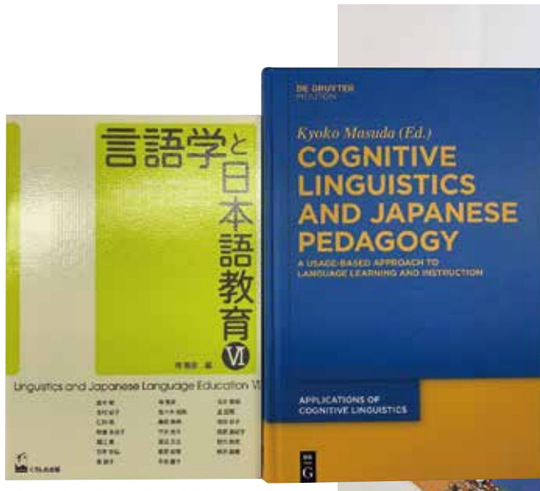
文法項目の習得メカニズムに関する研究

二つ目の研究は、大学院修了後に韓国で日本語教育に携わっていた際に行った、動詞のテ形（「食べて」「飲んで」の形）の習得メカニズムに関する研究です。動詞のテ形は活用ルールの複雑さから、初級の文法項目の中でも難易度の高い項目の一つと言われています。この動詞のテ形を実際に授業で教え、学習者の誤用に触れるうちに、テ形の活用にはどのようなストラテジーが用いられているかについて疑問がわいてきました。この疑問を解決するために、初級の韓国人日本語学習者を対象に動詞のテ形活用テストを行い、統計的手法を用いて分析しました。研究の結果、学習者は個々の動詞の活用形を暗記する「項目学習」から、その後徐々に、ルールを動詞に適用する「規則学習」へ移行しながら習得していくことが明らかになりました。

このように私にとって教育と研究は互いに刺激しあう切り離せない関係にあります。今後も日本語教育の現場に立ちつつ、研究活動に邁進したいと思います。

プロフィール

東北大学大学院国際文化研究科博士後期課程修了。博士（国際文化）。



「投射モデル」に関連する研究論文を発表した書籍

作成した日本語の教材

INTERNATIONAL EXCHANGE

国際交流

さまざまな国の学生との交流が、県立大生のグローバルな視点を育みます

ブラウィジャヤ大学の学生と交流

12月14日に本学が学術交流協定を締結しているインドネシア・ブラウィジャヤ大学とオンライン交流イベントを実施しました。国際関係論専攻の総合管理学部・高埜ゼミの学生9名とブラウィジャヤ大学で日本語を学ぶ学生14名が参加し、自己紹介、それぞれの住む国や地域についてのプレゼンテーション、パフォーマンスの披露などを行いました。

本学では、今後も海外の協定校にこのような企画を提案し、交流ができるよう働きかけを行います。

留学生による韓国語・中国語講座を開講

熊本県立大学後援会の支援を受け、留学生による韓国語・中国語講座を開講しました。韓国語講座の中級コースは、ほぼ韓国語のみで会話するなど高いレベルのものでしたが、本学の協定校である韓国・祥明大學校との交換留学を中断して帰国をした学生も参加し、留学期間短縮により不足した韓国語修得のための学習時間を補う一助ともなりました。

また、講師を務めた留学生にとっても、講座を通じて本学の学生と交流することで、交友関係を広げる良い機会となりました。

Global Loungeカフェイベントを毎月開催

Global Loungeでは、国際的な視野を広げることや本学留学生との交流を図り相互理解へのきっかけを作ることを目的として、月に1～2度、カフェイベントを開催しています。

コロナ禍でGlobal Lounge内でのイベントが難しい時は、オンラインによりシンガポール在住のNeville J McKenzie氏に起業する際の心構えなどを講義していただくなど工夫して実施しました。他にも、JICAの活動紹介や、本学留学生による出身国の紹介、留学経験者による相談会といった多岐にわたる内容で、これまで合計15回開催しています。学生からも、海外に行くことができない状況下でも異文化体験を楽しめました、と好評です。

新しい留学生が入学しました！

環境共生学研究科博士後期課程に2人の留学生が入学しました。Pyae Sone Soeさん（写真右）はミャンマーから、Syafran Arrazyさんはインドネシアから来日し、水銀研究留学生として、母国の水銀による環境問題に取り組むために研究を行うこととなっています。

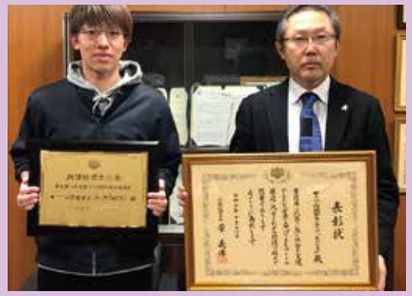
当初は９月の入学式に間に合うように来日する予定でしたが、コロナ禍の影響から来日が遅れ、12月にようやく入国することができました。それまでの3カ月間は研究科がオンラインで指導を行っていたため、本学での学びをスムーズに開始することができました。現在は本学の留学生サポーターの学生らの支援を受けながら、順調に日本での生活を送っています。

大学の動き

VR認知症体験会を開催しました

11月12日、VR認知症体験会を開催し、総合管理学部 西森ゼミ・森山ゼミ・松本ゼミの学生34名が参加しました。当日は、株式会社シルバーウッドの大野彩子さんにWEB会議システムにて遠隔進行をしていただき、参加者はバーチャルリアリティ（VR、仮想現実）機器を装着して、認知症のある人の世界を疑似体験しました。大野さんからは、高齢者の住まい「銀木犀」での認知症のある人の暮らしの実際や介護職としての経験も交えた解説をしていただきました。また、認知症のある当事者の方のビデオメッセージも視聴し、皆でどのような関わりが認知症のある人の安心につながるかを考えました。

サイバー防犯ボランティア「KC3」が総理大臣表彰を受賞



本学の学生が参加しているサイバー防犯ボランティア「KC3」が、防犯活動や再犯防止に大きな貢献をした団体に送られる「安全安心なまちづくり関係功労者内閣総理大臣表彰」を受賞しました。

今回受賞したKC3は、熊本県サイバーセキュリティ推進協議会の学生部会として位置付けられており、サイバー空間の安全・安心を実現するために活動しています。各大学の学生が熊本県警察本部サイバー犯罪対策課と連携して、青少年の被害防止を主な目的としたサイバーパトロールの実施、小中学校での啓発活動、高齢者への安全なスマホ利用講座の開講といった活動が評価され、今回の受賞となりました。

総合管理学部丸山ゼミ2年生チームACTがKKT主催「拓人プロジェクトGo Go ASO! 観光プランコンテスト」でグランプリ獲得

JRや国道が復旧再開した阿蘇市観光を盛り上げる事を目的とした、KKT主催「拓人プロジェクトGoGoASO!観光プランコンテスト～大学生が考える新しい阿蘇市の楽しみ方」に学生が挑戦しました（本学から3チームが参戦）。11月21日に阿蘇市で開催されたコンテストの中で、総合管理学部丸山ゼミ2年生チームACTが、「阿蘇市観光革命」のタイトルで“夜の阿蘇観光開発”をテーマにプレゼンと動画を提案し、見事グランプリを獲得しました。

動画データはこちら▲

食健康科学科の3年生が豪雨災害に伴う義援金の募金活動を行いました

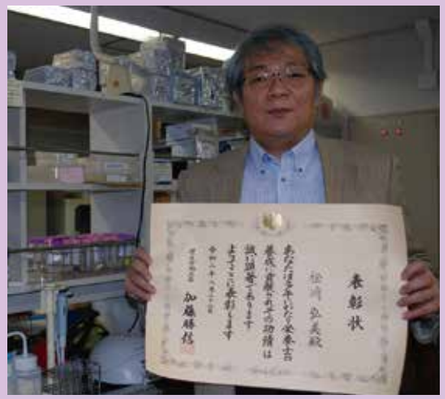
7月豪雨で被災した県南地域を支援しようと、食健康科学科の3年生が日頃の実験や実習で学びを深めていることを活かして、学内で特製のパウンドケーキを作成し販売しました。学生たちは調理や営業などにわかれて取り組み、大学後援会の協力やInstagramでの告知を行うなどした結果、大変多くの方にお買い上げ頂きました。

パウンドケーキの売上と募金をあわせた253,900円を熊本県健康福祉政策課に義援金としてお届けしました。

「熊本市教職員向けSD研修(トワイライト研修)」の講師を総合管理学部飯村研究室の学生らが担当しました

この研修は、熊本市、熊本大学、株式会社NTTドコモ、熊本県立大学の4者による、熊本市における教育ICT推進を目指す「教育情報化の推進に関する連携協定」に基づくもので、Zoomを介したオンラインにて、小学校プログラミング教育研修を教職員対象に行いました。「Tech Kids Kumamoto(テックキッズ くまもと)」でのノウハウを活かし、教職員に対してプログラミングの授業活用に関する学びの場を提供するという新たな試みになります。この試みは、従来の学校現場と逆発想の学習環境として、大学生である学生が教え手に、先生が学び手になるという、旧来の学びの形態に囚われない新たな学びのスタイルの一つと考えられます。

環境共生学部松﨑弘美教授が栄養関係厚生労働大臣表彰を受けました



多年にわたり栄養改善に尽力し、その功績が特に顕著であると認められる個人等に対し厚生労働大臣が表彰するものです。松﨑弘美教授は、平成12年4月に本学へ赴任以来、約20年にわたり「食べ物と健康分野」の科目などを担当し、栄養士・管理栄養士の育成、教育に尽力してきましたが、その長年の功績が認められての受彰となりました。

「咲くらジュレ」が水上村物産館で発売中です

総合管理学部丸山ゼミでは、本学の連携協定先である球磨郡水上村のお土産品開発プロジェクトに参加しています。そのプロジェクトの中で提案した商品案の一つが、水上村物産館 水の上の市場から「咲くらジュレ」として発売中です。村の観光スポットである市房ダム湖畔周辺の「1万本桜」をイメージした桜のレアチーズゼリーで、物産館のオンラインショップでも人気商品となっています。

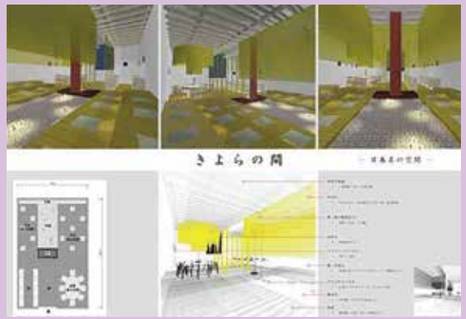
環境共生学部 友寄博子准教授「第1回フードテックグランプリ」で吉野家賞を受賞

環境共生学部食健康環境学専攻の友寄博子准教授が、10月に開催された「第1回フードテックグランプリ(株式会社リバネス主催)」において「インスリン代替製剤とその応用」と題した内容を発表し、その研究および発表内容が評価され、吉野家賞を受賞しました。海苔の健康機能性の一つである抗糖尿病効果に着目して海苔の高付加価値化を目指して研究を行ったもので、経口摂取可能なインスリン様成分を食品成分から分離することを目的に研究を行ってきており、海苔にその成分が含有する可能性が明らかになりました。この研究成果が実用化されることで、海苔の有効活用が進み、地域活性化にもつながるものとして期待されています。

夏目漱石離熊120年の記念オンライン展示を行っています

令和２年(2020 年)は、旧制第五高等学校の教授だった夏目漱石がイギリス留学のために熊本を離れてから120年を迎える年でした。これを記念し「熊本で出会った夏目漱石と寺田寅彦 ― 俳句・絵画・ヴァイオリン」をテーマに写真資料等のオンライン展示を昨年から期間限定で行っています。コロナ禍の中で様々な制約を受ける熊本県立大学図書館の新たな貢献のかたちです。是非、ご覧ください。

環境共生学部 髙橋浩伸教授「第39回JAPANTEX2020インテリアデザインコンペ2020入選」受賞



環境共生学部の髙橋浩伸教授が、「第39回JAPANTEX2020インテリアデザインコンペ2020」において、「入選」を受賞しました。2025年の大阪万博に際し、開催地近郊で“自分が泊まってみたい”“旅行客に泊まってほしい”と思うゲストハウス内の「共用スペース」空間を、ファブリックスを使って自由にデザイン、コーディネートというコンセプトのもとで募集がされ、髙橋教授は、人とつながるゲストハウスに対して、日本美の空間を代表する龍安寺石庭をモチーフにし提案しました。

後援会だより

就職活動をはじめ、多彩に学生をサポート

ガウンで思い出の一枚

新型コロナウイルスの影響で、白亜祭などの学校行事が軒並み中止になりました。

そのような中、「思い出の一枚を残そう」と、環境共生学部居住環境学科4年生がガウンを着用し、写真撮影を行いました。撮影当日は、先生方のご協力もあり、思い出に残る卒業写真となりました。

後援会では卒業式で着用するガウン貸出だけではなく、卒業記念撮影のみ(前撮り)の貸出も行っています。先生、友人の次は家族で1枚！是非ご活用ください。

《就職対策事業》

- ●就職対策講座(公務員試験対策、就職活動実戦、ITパスポート試験対策、簿記検定試験対策、等)の助成、資格取得及び講座受講等助成　他
- ●就職セミナー・各学部による就職支援事業・在学生就職アドバイザー配置支援、PROGテスト(社会人基礎力の測定)・TOEICIP学内試験への実施支援、福岡地区合同企業説明会参加助成、就職・進学写真代助成、保護者用就職ガイドブック作成配付

《学生活動支援事業》

- ●サークル活動費助成、白亜祭・PUKリンピック開催経費助成、体育委員会主催サマーキャンプバス代助成、全国大会等出場助成　他
- ●学生用カラーコピー機の設置、コピーカード配布・販売、食育支援(学食メニュー充実)、インフルエンザ予防接種費用助成　他
- ●学生のリクエストに応じ図書を購入し図書館へ配置　他

《国際交流推進事業》

- ●海外留学助成、留学対策講座助成、留学生による学生等向け語学講座開講支援　留学生危機管理サービス加入助成　他

《教育研究推進事業・その他》

- ●共同自主研究への助成、現地学習バス借上助成、インターゼミナール大会等への参加助成　他
- ●卒業式のガウン貸与、記念品贈呈　他

※新入生へは、本学合格通知の際に、後援会の説明及び入会・会費納入のお願いをしております。まだ未入会の方は、充実した学生生活を送るためにも後援会事業をご理解いただき、是非ご加入ください。年次途中であっても随時入会を受け付けております。

活き活き元気種

このコーナーでは地域で活躍する熊本県立大生の声をお届けします。

コロナ禍でも自分たちで考え練習に励む弓道部のメンバー

弓 道 部

弓道部 主将　田口航大（総合管理学部2年）

全日本学生弓道選手権大会で決勝トーナメントに初進出

私たち熊本県立大学弓道部は現在、1年生7名、2年生6名の計13名で活動しています。活動日は週に4回あり、生徒間による教え合いなどを通して互いに切磋琢磨しながら練習に取り組んでいます。新型コロナウイルス感染症の流行前は外部から師範の先生を招いてご指導いただいていましたが、今は状況が芳しくないため自分たちのみでの練習を行なっています。

新型コロナウイルス感染症流行の影響は様々な場面にも及びました。例年であれば開催されていたほとんどの大会が中止を余儀なくされ、熊本県内外の大学との交流戦や練習試合は自粛せざるを得ませんでした。ことごとく練習の成果を発揮する機会を失い、私たちは何を目指して練習すればいいのか分からずに途方に暮れる日々が続きました。しかしこのままいつか状況が改善することを待つのではなく、今だからこそ自分たちに何ができるのかを考えました。そこで交流のあるいくつかの大学に呼びかけ、オンラインでの練習試合を開催することにしました。具体的に言うと、zoomを用いて各大学の弓道場を繋ぎ、同時に競技を開始するという方法を取りました。今思うとこの練習試合は部員全員が改めて一丸となって活動していこうと団結する契機となったのではないかと思います。

先日、オンラインで全日本学生弓道選手権大会が開催されました。学生弓道の大会において最も規模の大きいものであり、全国の大学が参加しました。私たちはコロナ禍での練習のあり方が功を奏し、熊本県立大学弓道部初の全日本学生弓道選手権大会男子決勝トーナメント進出という快挙を成し遂げました。決勝トーナメントでは惜しくも初戦敗退となってしまいましたが、全国の舞台で戦える技量が証明されたことは部員たちの自信につながりました。

今後は、新型コロナウイルスの影響によって学生の様々な行動が制限されていくことが予想されますが、その状況を悲観するのではなく自分たちで考え、話し合い、この状況をどのようにしてより良く変えていくかという“思考”が大切になってくると思います。このような社会状況だからこそ、部員全員が安心して楽しく笑顔を絶やさないような雰囲気作りを第一に考え、部員共々一丸となって技術も磨いていき、今年度は大会優勝と大きく目標を立てて日々精進していきたいと思います。

おすすめの一冊

気候変動への「適応」を考える 不確実な未来への備え

肱岡靖明（国立環境研究所　気候変動適応センター　副センター長）著

知らない間に取り組んでいるかも？ 適応策

出版社：丸善出版　**出版年**：2021 年
ISBN-13：978-4621305980

これまで経験したことのない豪雨や記録的な猛暑。こうした極端な気象現象の多くについて、産業革命以降の人為起源による温室効果ガスの排出に伴う地球温暖化を考慮しなければ起こり得なかったということが科学的に明らかになってきました。

気候変動の対策は「緩和」と「適応」に大別できます。「緩和」は温室効果ガスの排出量を削減する対策ですが、「適応」は自然生態系や社会・経済システムを調整することにより気候変動の悪影響を軽減する（または好影響を増長させる）対策です。気候変動の影響は私たちの日々の生活にも現れており、適応は国や地方公共団体、事業者に加えて個人にも深く関係するテーマです。

本書は気候変動適応の入門書として、気候変動の現状や、適応の定義や考え方、我が国の法制度と地方公共団体に求められる取り組み、事業者や個人の適応、持続可能な社会の実現に向けて必要な適応のあり方など、国内外の事例を交えながら丁寧に解説されており、気候変動適応を包括的に理解するのに最適な一冊です。

総合管理学部　講師
岩見 麻子

人事情報

●採　用（令和３年４月１日付）

[文学部]

日本語日本文学科	准教授	羽鳥　隆英

[環境共生学部]

環境共生学科 食健康環境学専攻	准教授	岸　知子
環境共生学科 食健康環境学専攻	准教授	吉田　卓矢

●昇　任（令和３年４月１日付）

文学部	准教授	武上　富美
環境共生学部	教　授	小林　淳
総合管理学部	教　授	森山　賀文

●退　職（令和３年３月31日付）

文学部	教　授	中井　賢一
文学部	准教授	崔　文姫
文学部	講　師	野々宮鮎美
環境共生学部	教　授	南　久則
環境共生学部	助　教	外村　彩夏
総合管理学部	准教授	ボーフェ ポール

第 11 代熊本県立大学学長 米澤和彦氏が瑞宝中綬章を受章

令和２年秋の叙勲において、米澤和彦元学長が、瑞宝中綬章を受章されました。専門分野は社会学（ドイツ社会学、地域社会学）。1981年より前身の熊本女子大学に赴任され、2006年から本学学長を務められました。

長年にわたる教育研究活動への貢献に対するこのたびの受章に祝意を表し、今後ますますのご活躍を祈念いたします。